

## ICTを活用した地域コミュニケーション活性化と地域の賑わい創出

学生団体名：CirKit プロジェクト（金沢工業大学）

参加学生：宮川哲也・林謙吾・森本光輝・稲置美里・蓮圭祐（他15名）（情報学部、情報工学専攻）

### 1. 地域活動の概要

地域の店舗情報を調査し、ポータルサイトで公開するとともに、情報交流館カメラが主催する「野々市市制移行記念事業・カメラ祭り」でQRコードラリーを行った。また、小中学生を対象にしたサイエンスプログラム「カメラ・キッズ」ではICTを使い野々市市を発信するというテーマのもと、子供たちが動画の撮影、編集を行い各々の考える野々市市の動画を作成し、インターネットに公開した。

### 2. 地域活動の具体的な内容

▶ カメラ祭り（9月3日（土）役場中庭、情報交流館カメラ）

カメラ祭りは野々市市情報交流館カメラが主催した野々市町の市制移行を記念するイベントである。当日は500人の町民らが訪れ、我々スタッフ20名で携帯電話を活用したQRコードラリーを企画し、実施した。おもに小学生やその家族を対象に、QRコードに触れることで、遊びながらIT技術に関心を持ってもらうことを目的としたものである。

QRコードラリーの遊び方を図1に示す。CirKitスタッフから野々市市のキャラクター「のっティ」のQRコード付きうちわ（写真2）を受け取った参加者は、カードを持って、特製の



写真1 宣伝ポスター

写真1 宣伝ポスター  
スタッフTシャツとチェックポイントの看板を身に付けた5人のチェッカーを探す。チェッカーを見つけた参加者はチェッカーに声をかけ、チェッカーの手持ちの携帯でQRコードを読み取ってもらう。QRコードにはチェックを行うサイトのURLが書かれており、チェッカーがアクセスすることによって、そのチェックポイントを参加者がクリアしたことがサイトに送信される。チェッカーは読み取りが完了したら、参加者に現在の進行状況（残りのチェッカーの人数など）やチェックポイントのヒントを伝える。参加者は、チェッカーを探し出しQRコードを読み取ってもらった後、ブースに設置されたWebカメラに自分のQRコードを読み込ませる。Webカメラに接続されたPCがサイトへ接続して自動的に確認を行い、最低1箇所でもチェックポイントがクリアされていれば、景品交換ゲームに挑戦でき、景品がもらえる（チェッカーを1人でも見つけていれば景品交換に挑戦できる。チェックポイントをクリアした数によって景品の当たる確率が変化する）。また、参加者にはゲーム終了後に簡易アンケートへの回答を実施した（「3.地域活動の評価」の項を参照）。チェックポイントは、他団体のブー

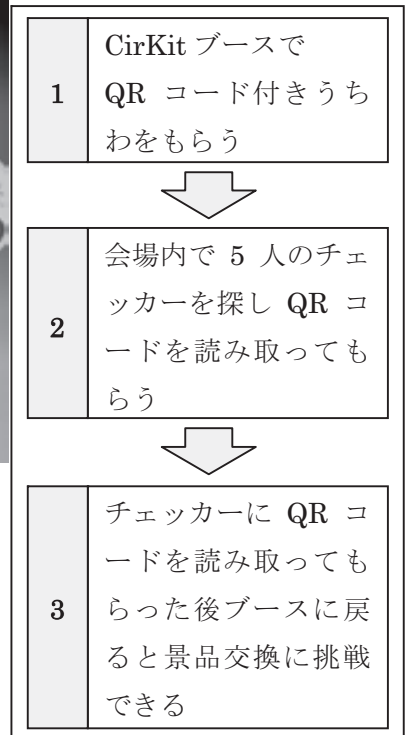


図1 QRコードラリーの遊び方

景品交換ゲームに挑戦でき、景品がもらえる（チェッカーを1人でも見つけていれば景品交換に挑戦できる。チェックポイントをクリアした数によって景品の当たる確率が変化する）。また、参加者にはゲーム終了後に簡易アンケートへの回答を実施した（「3.地域活動の評価」の項を参照）。チェックポイントは、他団体のブー



写真2 QRコード付きのっティうちわ

ス前やイベントに参加したらチェックしてもらえるなど、カメラ祭り全体を巻き込んで行った。

このイベントでは、CirKit ブースでのカードの受け渡し、景品の贈呈、チェッカーとのやり取りを通して地域の住民との交流を行い、参加者に配った QR コード付きのつティのうちわは、野々市のボランティア団体である「カメラ・パルの会」と協力して作成し、同じ地域活性化団体との交流も行った。また、ブースでは CirKit プロジェクトの PR としてポスターを掲示し、必要に応じてブースを訪れた方に説明を行うなどしてプロジェクトの認知度の向上を図るとともに、地域の方との交流を目指した。

➤ カメラキッズ（12月～2月 全5回 野々市情報交流館カメラ）

野々市市情報交流館カメラが主催した「カメラ・キッズ」は、1回3時間、全5回、3か月にわたり行われた。以下に第1回からの内容を順次示す。本プログラムに参加した賞就学生は13名。第1回は、カメラ・キッズの概要説明と動画内容の決定を行った。保護者と子供たちに活動の全体説明を行った後、子供たちを4～5人の3グループに分け、CirKit メンバーが2人ずつ付いた。野々市を大きなテーマとし動画に何を残したいかということ子供たちにブレインストーミングをさせ、CirKit メンバーは子供たちの意見にアドバイスをし、子供たちがどのような動画を作るかということをもとめさせた。第2回は、動画内容の決定と動画撮影を行った。動画内容の決定は第1回で決まらなかったことを決め、CirKit メンバーは子供たちがより具体的に動画内容を決定できるようにサポートした。動画撮影では決定した動画内容をもとに各グループが撮影に行った。撮影時には CirKit メンバーも同伴し、撮影のアドバイスや注意を呼びかけ、子供たちが予定通り撮影できるよう努めた。第3回は、第2回で撮り残した素材の動画撮影に行き、各グループの進行状況を合わせるよう努力した。第4回は撮影した素材を編集し動画作成を行った。子供たちがわからないところは CirKit メンバーがサポートし、子供が希望する動画作品の完成に向けて編集を行った。

地域活動の評価

➤ カメラ祭り

今回は前年の参加者数から、300名分の QR コードを用意した。しかし、当日は台風のため屋外での開催は見送られ、屋内での実施となった。そのため参加者数が企画当初よりも大幅に少ない150名程度となった。QR コードラリー参加者を対象に実施した簡易アンケートの結果を図2に示す。アンケート結果より、50代・60代といった高齢の人にもイベントに参加してもらえ、老若男女すべての人に最新の IT 技術に触れて貰う機会が作れた。また、「QR コードラリーは各企画に参加するきっかけになりましたか？」という問いには、半数以上の方が「はい」と答えており QR コードラリーが、他団体のイベントへ参加するきっかけ作りになったといえる。

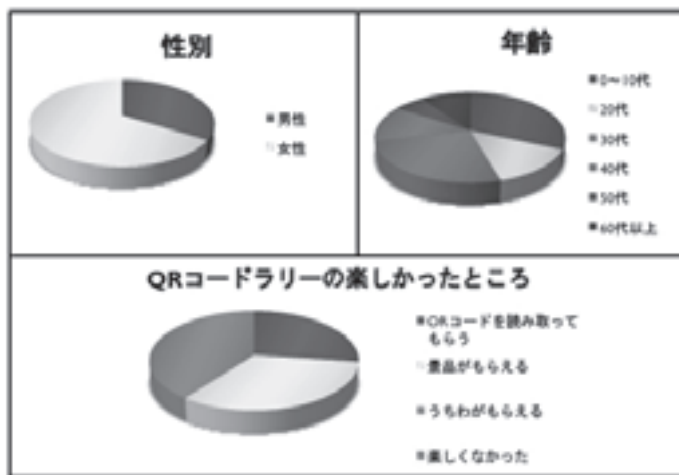


図2 QR コードラリー参加者アンケート結果

本イベントの実施は CirKit プロジェクトが地域活性化しようとしている地域の方々と直接触れ合え、準備でも「カメラ・パルの会」の人たちと交流しながら準備でき貴重な体験であった。ま

た、本イベントでは実施スタッフを1・2年生が占めており、早い時期からこのような大きなイベントを主体的に企画・実施するという経験は、今後のプロジェクトの中心となっていくメンバーにとって大変貴重なものとなったと思われる。さらに、リーダー・サブリーダーの役割を担った学生も、チームの中心となってメンバーをまとめ活動を行うことでリーダーシップや協調性を、外部の方との打ち合わせなどを通してコミュニケーション能力などを身につけることができ、大変有意義な活動であった。

▶ カメリアキッズ

今回の活動のテーマは「ICTで野々市発信編」であり、野々市市誕生を記念して今の野々市を世界に発信するという目標で行われた。野々市を野々市の子供とCirKitで発信することで野々市の魅力を多くの人に伝えられたと思われる。また今回の活動ではCirKitの1年生が主体となり、企画内容の決定や各回のミーティングを行ったので1年生メンバーの成長に大きく役立った。

3. 今後、この地域活動を継続、活発化していくために必要なもの、及び課題

▶ カメリア祭り

QRコードラリーは今回が2回目の実施であり参加を促すためのアプローチの仕方は違うが、システムの内容や遊び方は同じで、参加者から「去年と同じやり方で新鮮さがなかった」という意見があり、来年もカメリア祭りに参加する場合には、企画の内容を一から考え直す必要がある。また、今回はCirKit加盟店とのコラボレーション（クーポンの発行、うちわへの広告掲載）が準備期間が不足し出来なかったため、次回は早めに準備を始める必要がある

▶ カメリアキッズ

今回はICT編第2回ということで、子供たちの中にリピーターもいたので飽きさせないということで企画内容を決定し、スケジュールの調整を行わなければいけなかったが、全体的な進行が遅かった。子供の意見を尊重したので、各チームの進行状況にばらつきがあり予定よりも動画編集時間が短くなった。次回は子供にどこまで活動させるかということも含めて事前の打ち合わせをもっと入念に行う必要がある。

4. その他（学生や地域の方からの感想など）

▶ カメリア祭り（QRコードラリー参加者の感想）※一部抜粋

- いろいろな所をまわるきっかけづくりになった。
- 行きたかった所だけでなく、いろんな所を回れてよかったです。
- 全ての企画を見る良いきっかけになりました。QRコードをこんな風に使えるのだと関心を持った。
- 各企画に楽しく参加することができてよかった。
- ハイテクにふれた気がするのがよかったです、自分で送信できるとよかったかも。
- ピットするのが新鮮でよかった。
- どんな仕組みになっているのかははっきりとわかりませんが、「こういう時代になったんだなあ〜」と思いました！
- 最初は仕組みがわかりにくかったが、すぐに慣れた。
- 若者たちが頑張っていてにぎやかになりますね。
- 台風のせいで屋外を利用してできなかったのが残念です。



写真3 QRコードラリーの様子

● 情報交流館カメラスタッフの感想

昨年に引き続き、「カメラ祭り」及び「カメラ・キッズ」の運営にご協力いただきありがとうございました。

カメラ祭りでのQRコードラリーは前年度の反省を踏まえて、個別の企画だけで完結するものではなく、ものづくりやIT体験など祭りで催されるそれぞれの企画を繋ぐ案を練ってほしいとお願いしたところ、各企画に参加したらQRコードをチェックするという仕組みをつくっていただきました。これにより、QRコードラリー受付所が総合窓口の効果も果たし、参加者にとっては催しの全体像を把握し、各企画に参加するきっかけにも繋がりました。

また、カメラ・キッズでは、ブレインストーミングにより作品のテーマ決めを行いました。各班の個性も出て、子どもたちの自由な意見をまとめることに大変苦労したと思います。テーマ決めの際の会話で、「すえまつはいじって何?」「えー！末松廃寺も知らんがぁ！？ここは…」と小学生が大学生に野々市の名所を教えるという姿も見うけられ、作品づくりを通して、大学生のみなさんも野々市を知るきっかけにもなったのではないのでしょうか。撮影・編集の段階で時間が足りなくなる中、各班でそれぞれに進行を考慮してリスク回避の案を考え、臨機応変に対応いただいた結果、無事最後の発表会に備えることができました。

上記のアクティビティの実施により、ICTの利便性や魅力を伝え、デジタル機器を活用した創作活動、情報発信の楽しさを広く市民の方に体験していただく機会となりました。

2011年に町から市になった新生野々市のこれからを、今後も柔軟でパワフルなエネルギーを持つ学生さんと共に創っていかれたらと思います。今回のような地域での活動を通して、学生のみなさんにとっても将来社会に出た際に役立つ、リーダーシップを身につける機会になれば幸いです。



## 合同学園祭 ‘11

学生団体名：創ル部（石川県内の大学,短期大学,専門学校,高専等 16校）

参加学生：大巻信博 丸山遼太 半田真人 小塚崇史 伊藤暦 他 80 程

## 1. 地域活動の概要

私たち創ル部は、立案・企画・運営全てを学生だけの力で作り上げる活動を通して、積極的な学生、自発的な学生、活発な学生を増やし「金沢に衝撃と感動を」と与えると共に、「金沢＝日本一学生の熱い街」という文化を創りたいと本気で考え活動しています。今年は、金沢の中心地で合同学園祭 ‘11 というイベントを行いました。

## 2. 地域活動の具体的な内容

## 【開催概要】

- (1).名称 合同学園祭’11
- (2).開催日 2011年9月24日(土)
- (3).会場 石川県立中央公園（金沢市広坂2丁目）
- (4).主催 学生団体「創ル部」（<http://www.tukurubu.org/>）
- (5).参加学生関係者学校一覧

石川県立総合看護専門学校,石川県立大学,石川工業高等専門学校,金沢医療技術専門学校,金沢医療センター附属金沢看護学校,金沢大原学園,金沢科学技術専門学校,金沢学院大学,金沢学院短期大学,金沢工業大学,金沢星稜大学,金沢大学,金沢美術工芸大学,金城大学,金城短期大学,国際ビューティ・ブライダル専門学校金沢,国際ペット専門学校金沢,星稜女子短期大学,富山大学,富山県立大学,北陸学院大学,北陸学院短期大学,北陸大学,マーベラスビューティーカレッジ

計 24 校

- (6).参加学生数 約 550 名
- (7).協賛企業数 137 社
- (8).協賛店舗数 75 店舗
- (9).出店ブース数 36 ブース
- (10).来場者数 約 21,000 人



昼の様子



夜の様子